

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 22 号:2012 年 7 月－2012 年 8 期】

* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済概況

2012 年上半期の GDP の成長率は 8.1%

公式評価によれば、今年上半期のインフレ率は 3.4%、国家予算の執行状況は GDP 比 0.2%の黒字であった。

今年上半期のウズベキスタンの貿易高は、2011 年同期比 6.6%増加して 130 億 8,800 万ドルとなった。このうち輸出は 71 億 6,500 万ドル (+1.1%)、輸入は 59 億 2,300 万ドル (+14.1%) であった。CIS 諸国との貿易高は 61 億 3,700 万ドル (+21.9%) に達し、そのほかの諸国については 69 億 5,100 万ドル (-4%) であった。このうち CIS 諸国向けの商品とサービスの輸出は 38 億 4,200 万ドル (+33.5%) となり、CIS 諸国からの輸入は 6.4%伸びて 22 億 9,500 万ドルになった。貿易収支は 12 億 4,200 万ドルの黒字となり、このうち CIS 諸国とは 15 億 4,600 万ドルの黒字、その他の諸国とは 3 億 470 万ドルの赤字であった。

2012 年上半期、ドル換算で 54 億ドルの資金が固定資本に投資された。2011 年 1 月～6 月期と比較して 10.9%の伸びである

実物経済部門には 6 兆 7,560 億スム（総額の 67.7%）、非実物部門には 3 兆 2,230 億スム（32.3%）がそれぞれ投資された。投資総額の内訳は、投資主体別にそれぞれ企業と家計が 54.3%、予算が 4.6%、外資による対内投資および融資が 18.7%、銀行融資その他の借入金が 10%、復興開発基金を含む予算外基金が 12%であった。外資による対内投資および融資が最も多く向けられた方面は、輸送・通信（42.1%）および燃料エネルギー（30.9%）であった。

ウズベキスタンでは中小企業が 2012 年上半期に GDP の 42.6%を産み出した

これは昨年同期比 0.4 ポイントの増加。2012 年 1 月～6 月期に産出された GDP の額は、速報値によると名目値で 41 兆 6,860 億スムであった。中小企業の事業所は 2012 年

1月～6月期、904万6,000人の雇用、すなわち経済分野における全雇用の74.7%を担っており、これには個人部門での就業者670万5,000人が含まれる。中小企業は鉱工業製品5兆1,100億スム（全鉱工業生産の21.2%）を生産した。2011年1月～6月期と比較して19.9%の増加である。投資額は3兆5,340億スム（投資総額の35.4%）となり、これは2011年の指標と比較して31.2%の増加であった。中小企業の製品輸出額は、10億8,700万ドル（輸出総額の15.2%）となり、2011年1月～6月期と比較して14.1%の増加であった。

マクロ経済指標公式予測によるウズベキスタンにおける GDP 成長率

公式予測では2012年が8.2%、2013年が8.1%、2014年が8.2%、2015年が8.2%となっている。また、今年のインフレ率は7～9%と予想されているが、2015年までにはこれが5～6%に低下すると予測されている。2012年の鉱工業製品生産高の伸び率は8.6%と予想されているが、政府計画ではこれを2015年までに9.3%まで引き上げることになっている。農業生産高の伸び率は2012年については6.9%程度、2015年までにはこれが5.1%まで減速すると予想されている。

世界銀行が2012～2013年のウズベキスタンの GDP 成長率予測を据え置き

同銀行の報告書「グローバル経済見通し 2012年6月」によると、経済成長率は2012年が8%、2013年が6.5%とそれぞれ予測されている。報告書のデータでは、国際収支のうち経常収支黒字は2012年にGDPの4.5%、2013年には4.4%になる。それまでの世界銀行の予測では、経常収支黒字が2012年にはGDPの7%、2013年には6%になるとされていた。

投資政策

世界銀行が発表するランキング「Doing Business（ビジネス環境の現状）」で上位10位に入ることをウズベキスタンが計画

ウズベキスタンでは8月1日から、事業、国家統計報告、財務諸表、納税申告書に関連して必要とされていた80の許可取得手続き（総数の26%）を、廃止したり書式が重複するものを統合したりすることによって、撤廃した。種々の営業・事業許可証が今後、有効期間に制限をつけずに交付されることになる。

このうち、新規に設立された企業を登記するための手続きの種類が 6 つから 3 つに減らされ、登記に必要となる期間が 14 日から 4 日に短縮される。また、企業を新しく設立するときに必要な開業納付金を現在の国民一人当たり所得の 27.2% からゼロパーセントに圧縮する意向である。そのほか建設の許可書を取得するのに必要となる手続きの種類が 25 から 12 まで、電力系統への接続のために必要となる手続きの種類が 9 つから 5 つにそれぞれ減らされる。さらに、所有権の登記に必用となる手続きの種類を 12 から 1 つに減らし、手続き期間も 78 日から 7 日に短縮するための措置が講じられている。

そのほか、納付される税金の種類を 41 から 7 まで、輸出を行うのに必要となる書類の種類を 6 つから 4 つに、輸入の場合は 11 から 5 つにそれぞれ減らすことになっている。政府はまた、契約の確実な履行を求めて提訴される訴訟の費用を係争になっている財貨の価額の 22.2% から 9 % まで引き下げることになっている。

地域投資プログラムに基づく諸プロジェクトの枠内で 5 億 8,980 万ドルの投資が誘致された

2012 年の地域投資プログラムは、投資の誘致を伴う 1,184 のプロジェクトを含んでおり、そのうち外資による対内投資は 11 億 6,330 万ドル（2011 年比 138.3%）に達している。外資による投資先は分野別に見ると軽工業、サービス、化学工業・石油化学工業、建設資材製造業、食品工業、青果物生産・加工業、紙製品製造業、金属加工生産業、建設、自動車部品製造業、皮革加工業・履物製造業、製菓産業などに及んでいる。

対内投資の主な出資元を国別に見ると、英国－4,910 万ドル（外資による対内直接投資・融資総額の 21.1%）、中国－2,700 万ドル（11.6%）、キプロス－2,460 万ドル（10.6%）、ロシア－1,920 万ドル（8.2%）、スイス－1,280 万ドル（5.5%）、トルコ－1,170 万ドル（5.0%）、米国－1,160 万ドル（5.0%）、韓国－750 万ドル（3.2%）、ドイツ－670 万ドル（2.9%）、その他の国々－1,690 万ドル（7.3%）となっている。

金融セクター

ウズベキスタン対外経済活動銀行（National Bank for Foreign Economic Activity of the Republic of Uzbekistan; NBU）が、韓国輸出入銀行を引き受け手とするクレジット

トラインを設定し、中小企業の事業を外貨面から支援するプログラムを実施

クレジットラインの総額は 6,000 万ドル。融資は、最新の小型技術や小型設備の買い付け、最新の技術に基づき地域の原料の高度加工を考慮に入れた生産現地化体制の構築に、割り当てられる。対外経済活動銀行はクレジットラインの枠内で 10 万ドル以上の輸入契約に融資する。融資期間は 1 年間の優遇期間を含み 2 年～ 5 年。

格付け機関 Fitch Ratings の評価によればウズベキスタンの各銀行は安定的だがリスクをとる用意ができていない

ウズベキスタンの銀行は、公的金融機関が支配的地位を占める地域経済環境の中にあつて、十分安定的な指標を呈している。しかしこれと同時に、低水準のコーポレートガバナンスとリスク管理、最近の急速な資産の伸び、顕著な指令型融資および不良資産の購入といった現実を目を向けると、これらが原因となつていつ経済的激震に見舞われてもおかしくない状況に置かれていることに変わりはない。これについては、このほど公表された国際格付け機関 Fitch Ratings の特別報告書に記載されている。現行の外貨規制を考慮に入れると、特に脆弱なのは銀行の外貨債務、とりわけ貿易金融関連の外貨債務である。格付け機関の見解によれば、ウズベキスタンの銀行セクターの安定性が現在のところ保たれているのは、経済成長が急速で、国外金融市場からのリスクにさらされる度合いが低く、国家が強力な対外・財政ポジションをとっているためであるという。

ウズベキスタンの銀行業界は現在、30 の銀行から成り立っており、そのうち国営銀行が 3 行、外資の出資を仰いでいる銀行が 5 行、株式会社が 12 行、個人銀行が 10 行である。2011 年、ウズベキスタンのすべての銀行を合わせた総資産は 2010 年の実績比で 32.4% 増加して 27 兆 4,500 億スムとなり、貸し出しポートフォリオの総額は 35.6% 増加して 15 兆 6,500 億スムとなり、総銀行資本は 30% 増加して 5 兆 3,340 億スムとなった。

エネルギー・セクター

ベトナム社がウズベキスタンで石油探鉱に 6,160 万ドルを投資へ

国営持株会社ウズベクネフチェガスとペトロベトナム探査採掘総公社（Petrovietnam Exploration & Production、PVEP）が、モラバウル（Molabaur）投資ブロックで 5 年間に渡って総面積約 3,600 m² の探鉱を行う協定を結んだ。ベトナム側投資家が協定に基づくすべての自己の義務を履行した後に、採算の取れる油ガス鉱床が発見された場合には、

双方は生産物分与協定を締結するための交渉に入る。ウズベキスタン全体で外国各社には現在までに将来性のある油ガス鉱床の総面積の 64%が探鉱に供するために引き渡された。引き渡された区域の油ガス予想資源量は 41 億標準燃料トン（予想資源量全体の 52.5%）である。

ウズベキスタンが輸出向け電力供給を拡大

ウズベキスタンでは 2012 年上半期、電力 213 億 kWh、熱エネルギー 430 万 Gcal がつくられた。この結果、国営株式会社ウズベクエネルゴは直接契約に基づいて隣接した国々向けに電力を供給することが可能となった。上半期の電力輸出量は計画の 147.5%に達し、超過達成となった。

米国の Honeywell 社がウズベキスタンにおける軽質オレフィン工場設立に参画する予定

このプロジェクトでは、ブハラ州で生産される天然ガスを原料にして軽質オレフィン（エチレン、プロピレン）を生産するコンビナートを建設する予定である。まず、最大 50 万トンのメタンを生産し、このメタンを原料にして最大 19 万トンのエチレンとプロピレンを生産することになる。米側は 2012 年末までにプロジェクトのプレフィジビリティスタディ（Pre-FS）を行うことになっており、その後、米社とウズベキスタン側はその先どのように協力していくかについての話し合いに移ることになる。見積もりで 12 億 7,000 万ドルとなるこのプロジェクトの費用は、Honeywell が誘致する借入金、ならびにウズベキスタン側が用意する資金によって賄われる。これまでの報道でも Honeywell は 2011 年～2013 年に 1,900 万ドルの費用をかけてウズベキスタンに工場を建設するプロジェクトを実施する予定であるといわれていた。しかしこのときはガスを燃料として走る自動車用の機器を生産する工場が想定されていた。

米国の Nukem がウズベキスタンにウラン生産用ポンプの製造工場を設立する計画

これに関連して合弁設立に関する覚書が Nukem 社とナヴォイ鉱山精錬コンビナート（NGMK）の間で取り交わされた。合弁の設立には Nukem のほかデンマークの Grundfos 社とドイツの Grupart 社が外国側共同創設者として加わる。合弁は、ナヴォイ自由産業経済特区の区域内に置かれ、その設計生産能力は年産ポンプ 2,500 台となる。これはウズベキスタンのウラン部門のこの種のポンプに対する需要をまるごとカバーする規模である。NGMK はウズベキスタンにおけるウランの採掘と輸出を行う独占的事業会社。

Nukem と NGMK は、2023 年に期限が満了となる包括協定に基づいて、1992 年からウラン供給に関して協力関係にある。Nukem の資料によれば、ウズベキスタンではこの 20 年間に 1 億ポンドの低濃縮ウランが買い付けられた。

GTL 技術に立脚したメタン原料合成液体燃料生産工場が着工

このプロジェクトは、ウズベクネフチェガスが Sasol 社（南アフリカ）および Petronas（マレーシア）と組んで実施している。工場の起工式は 7 月 23 日カシュカダリヤ州で行われた。プロジェクトの費用は見積もりで 40 億ドルとなる。定格生産能力は計画で 1 日当たり 3 万 8,000 バレル、年間 150 万トン。合成液体燃料、とりわけ、ユーロ-IV、ユーロ-V 基準のディーゼル燃料と航空燃料を生産することになっている。原料基地となるのはシュルタン（Shurtan）、北ニshan（Severnyi Nishan）、ジャルクドゥク（Dzharkuduk）およびベシケント（Beshkent）を含む 24 のガス鉱床とガスコンデンサート鉱床である。

自動車・輸送セクター

ウズベキスタンでドイツの MAN トラック生産工場が操業を開始

合弁企業“JV MAN Auto-Uzbekistan”の MAN 大型トラック生産工場の開所式がサマルカンドで行われた。工場は 2011 年 4 月初めに着工された。プロジェクトの第 1 段階では組立ショップ、塗装ショップおよび診断エリアが建設され、生産規模は計画ではトラックトラクタとシャーシが年産 5,000 台となっており、将来的に 1 万台まで拡大できる余地を残す。そのほか車両の販売とアフターサービスのためのディーラー・センターとサービスセンターが建設される。

今後は、トラックのキャビンと支持フレームの生産、ならびにトレーラとアタッチメントおよびそれらの関連機器全般を生産する設備を導入することが視野に入れられている。長期的には設備能力を増強してトラックトラクタの生産を年間 2 万台まで拡大する計画である。

現在、MAN 車の組み立てはサマルカンド自動車工場（SamAvto）をベースにして行われている。昨年は 839 台のトラックと 577 台の特殊車両が生産された。2012 年は 1000 台の大型トラックを生産する計画である。

その他のセクター

ウズベキスタンの製薬部門では 2012 年～2013 年期中に 39 の投資プロジェクトが新たに実行に移され、その総額が 2 億 9,050 万ドルになる

これらのプロジェクトのうち一部のプロジェクトは優先して実施することになっている。それは、需要が高く、現在はもっぱら輸入契約に基づいてウズベキスタンに輸入されている広範囲のジェネリック医薬品を生産する工場を設立するプロジェクトである。このようなプロジェクトとして、合弁サルブリス・ビタ (Salubris vita) の腸内微生物叢正常化薬剤生産プロジェクト (費用 2,100 万ドル)、合弁アリビファルマ (Al'bifarma) のビタミン製剤生産プロジェクト (800 万ドル)、DKhO Nika Pharm 社の心臓治療薬生産プロジェクト (530 万ドル) などが挙げられる。予測によれば製薬部門の今年の医薬品の生産高は 40% 増加し、金額で 3660 億スムとなる。主な医薬品の生産高は数量で 3 倍となる見通しである。製薬市場全体で国産品の割合は 43% に近づいている。

トランスフォーマー生産ウズベキスタン・中国合弁企業エレクトル・クワット・クリルマラリ (Electr Kuvvat Kurilmalari) がタシケントで業務を開始

この合弁の創立者は、Holley Metering Limited (55%、中国)、公開型株式会社エネルゴタ-ミル (Energota-mir、25%) および合弁 Elektron Xisoblagich (20%)。この事業の費用は約 500 万ドル。合弁の生産能力はトランスフォーマー年産 10 万台。現在は出力 0.4kV のトランスフォーマーを生産しているが、将来的には 10~35kV および 1000kV のトランスフォーマーを生産する予定である。合弁は、第 1 段階では製品の最大 10% を輸出に向けるが、2013~2014 年期中にはこれを 20% に引き上げることにしている。